

研究Ⅲ「ポストコロナ社会で社会はどう変化するか」

藤島高校はSSHの取り組みとして、生徒諸君が「創造力を有した未来社会のリーダー」になるために、「研究力」と「厚みのある教養」を身につけることをねらいとした教科「研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の授業を行っています。今回「研究Ⅲ」の授業として、ポストコロナ社会を考える講演を実施しました。

1 目的

研究Ⅲの単元「社会のあり方を考える」として、昨今の新型コロナウイルス感染症への対応に係る諸問題をとおして、答えのない問いを解決する態度を育成するために、専門家による講演を行い、社会に潜在する課題に気づく。

2 日時 令和2年6月17日（水）7限 15時～15時50分

3 講師 岩崎博道氏（福井大学医学部教授、医療環境制御センター感染制御部）

4 概要

（1）講演の内容

- ・100年ごとの繰り返される未知の感染症と人類の歴史について
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の仕組みとその脅威について
- ・新しい生活様式と余裕のある寛容な社会をつくることの必要性について

（2）生徒からの質問

生徒からは、「第2波はいつ来るのか」、「いまマスクを付ける意味はあるのか」、「特定の医療機関への負担をどう改善すればよいか」などの質問が寄せられました。

岩崎先生からは今回、実際に各行政機関や医師会などと協議をしながら、具体的な対応を考えていった経緯をお答えいただき、未知のウイルスに対応するために様々な人々が知見を持ち寄って考え続けている様子を教えていただくことができました。



※令和2年6月19日（金）福井新聞、日刊県民福井朝刊にも掲載されました。